

名目賃金の硬直性は財政乗数に影響を及ぼすのか：
Two-agent new Keynesian モデルによる考察

桃山学院大学 井田 大輔

大阪学院大学 岡野 光洋

本研究では、名目賃金の粘着性が財政乗数に与える影響を Two-agent new Keynesian モデルで検証する。本研究から得られた主要な結果は下記のとおりである。まず、名目賃金が完全に伸縮的な場合、流動性制約家計の割合が増加すると、Money-financed fiscal stimulus (MF) と Debt-financed fiscal stimulus (DF) の場合で財政乗数は上昇することがわかった。次に、名目賃金に粘着性がある場合、流動性制約家計の割合が増加すると、MF の財政乗数は大幅に減少してしまう。さらに、名目賃金の粘着性と流動性制約家計が同時に存在する場合でも、MF レジームの財政乗数は DF レジームの財政乗数を上回る。加えて、減税による財政刺激政策では、流動性制約家計の割合が増加すると、MF レジームと DF レジームのケースで財政乗数が大きくなることを明らかにする。最後に、名目価格粘着性の程度と政府支出の規模は、財政出動が生産に及ぼす効果を評価する上で極めて重要であることを指摘する。